

< 海外情勢 >

武漢ウィルスで明らかになった…中国共産党の御用聞きとしての WHO

「国連関連機関は似たりよったり」

藤 井 巖 喜

(国際政治学者)

今回の武漢ウィルス騒ぎで WHO の権威はスッカリ地に堕ちた。

以前は国連関連専門機関の中でも、WHO の評価は比較的、高かったのである。

しかし今や WHO は中国共産党の御用聞きのごとき存在である。

その実態がスッカリ暴露されてしまったのである。そもそも WHO のテドロス事務局長は、常にチャイナを擁護するような言動をとってきた。そもそもテドロス氏は何故、中国共産党に頭が上がらないのだろうか。その実態をみてみよう。

テドロス氏の出身国はエチオピアで、彼はエチオピアで保健大臣や外務大臣を務めてきた。そして彼が外務大臣を務めている時に、エチオピアはチャイナの提唱する一帯一路構想に参加することが決まった。謂わば、彼が手引きをする形でエチオピアを一帯一路構想に引き込んだのである。チャイナからすれば、エチオピアは一帯一路構想の優等生である。ということは、借金漬けにされてエチオピアはチャイナの属国化しているということの意味する。

エチオピア国民にとっては迷惑な話だが、チャイナから見れば、エチオピアを「債務の罟」に嵌めてくれたテドロス氏は、感謝すべきチャイナの工作人員とでもいうべき存在である。2017年7月にテドロス氏は WHO 事務局長の職に就く。

実はこの前の事務局長が香港出身のマーガレット・チャンというチャイニーズだった。チャイナとしては、WHO 事務局長に再びチャイニーズを嵌め込みたいところであったが、流石に同じ国出身の人物が WHO 事務局長を2代続けることは出

来ない。そこでエチオピア国籍ではあるものの、チャイナの言う事を 100%聞いてくれるテドロス氏を WHO 事務局長の地位に嵌め込んだのである。

彼はチャイナの全面的な支持を得て、WHO 事務局長となった。だから彼があたかも中国共産党の党員の如く、習近平に忠実に振舞うのは当然の結果なのである。テドロス氏は若い頃、共産主義の運動に参加しており、毛沢東思想にもいたく入れ込んでいたと伝えられる。

そうであるとすれば、彼は初めから反米親中の人物であったのだろう。

単に反米のみならず、西側民主国家を否定するような共産主義思想の持主であればこそ、中国共産党と折り合いがいいのであろう。まして WHO 事務局長という世界の名士の地位を手に入れたのだから、彼が常に中国共産党政権を忖度して行動することはあまりに当然の結果なのである。

WHO の親中忖度行動

武漢ウィルス発生以降、WHO がどれほど酷い従中の行動をとってきたかを時系列でみてみよう。

2019 年 12 月 30 日、武漢市中心医院の李文亮医師が「7 人の SARS 感染が確認された」と SNS 上のグループ・チャットで公言した。実はこれが武漢ウィルス感染だったのだが、この後、李文亮医師は警察に逮捕されデマを拡げたとして自己批判文を書かされた。その後、武漢ウィルスとの戦いの最前線に立った李文亮医師は自らも感染し、2 月 7 日に他界している。

李文亮医師がこの発信を行なった翌日の 12 月 31 日、チャイナ政府は原因不明の肺炎が拡がっていることを公表した。しかし人から人への感染については否定している。1 月 3 日にはチャイナ政府は WHO に公式に武漢で危険な新型肺炎が拡がっていることを通知した。ところがその 2 日後の 1 月 5 日、WHO は武漢で発生したウィルス性肺炎について「旅行や貿易の制限を実施するまでの必要はない」と発表し、過剰な反応は控えるように呼びかけた。如何にも新感染症が危険ではないように印象付けようとしたのであろう。

その後、武漢市を中心にウィルス感染が拡がり、ついに 1 月 20 日、チャイナ政府はこの病気が人から人に感染することを認めた。翌 1 月 21 日、WHO も同様の発表を行なっている。ここで台湾の動きに言及したい。

1月14日に至っても、WHOは人から人への感染はないと発表していた。ところが台湾の陳時中・衛生福利部長（厚生大臣に相当）は2019年12月31日付けでWHOに電子メールを送り、「**チャイナで発生している呼吸器系の感染症は、人から人に感染する可能性が高い**」と警告していたのである。にも関わらず、WHOはこの貴重なアドバイスを無視し、人から人への感染を認めたのは、その21日後であった。

ちなみに陳時中・衛生福利部長は歯科医であり今回も新型コロナウイルス対策本部トップの地位にあり、その手腕が極めて高く評価されている。

3月26日に行なわれたある世論調査では、国民の陳時中に対する満足度は91%に達し、政府の感染拡大防止策は国民の84%の指示を得ている。

感染症対策の陣頭指揮をとり、1日も欠かさず毎日、午後2時からの記者会見に臨む陳時中氏のあだ名は「**鉄人大臣**」である。さて話を元に戻そう。

ところが1月22日から23日に開かれたWHOの緊急委員会では、緊急事態の宣言が見送られたのである。WHO独自の調査もせずにチャイナが提出した情報を鵜呑みにして、この時点で緊急事態宣言を出さなかったことは、WHOの大きな過ちであった。実はこの時に、世界中の関係者はWHOが緊急宣言を発令するものばかり思っていたのである。その1月23日には、チャイナは武漢市の都市封鎖を開始する。つまり1月23日、WHO緊急委員会が緊急事態宣言を出さなかった日に、チャイナは武漢市を封鎖したのである。

事態が如何に緊急なものかは、この都市封鎖によって明らかである。如何にWHOが矛盾した行動をとったかが分かるだろう。武漢を都市封鎖したチャイナのメンツを守る為に、敢えて緊急事態宣言を避けたのであろう。

1月30日には、ようやくWHOは緊急事態を宣言する。それでもテドロス事務局長はチャイナを擁護し、スイスのジュネーブにおける記者会見で次のように語っている。「**必要な人やモノの移動を制限する理由はない**」そしてWHOは感染地への渡航や貿易を制限する勧告を出さなかった。一体、何の為の緊急事態宣言であろうか。翌1月31日、米トランプ政権はチャイナからの入国を全面禁止した。（実行は2月2日から）この時、トランプ大統領はWHOから「**八国禁止を行なわないように**」というアドバイスを受けていた。トランプ大統領は後に、「**あの時のWHOの間違ったアドバイスを受け入れなくて良かった**」と回顧している。

2月17日に WHO は調査専門家チームを北京市に送りこんだ。22日には調査の為に、この専門家チームは武漢市に入ったと報告されている。しかし、どうも本当の現場には赴かなかったようだ。そしてこの専門家チームは著しく中国共産党のメンツを付度するようなレポートを発表する。

2月25日、チャイナ視察を終えた調査チームのブルース・エイルワード WHO 事務局長上級顧問は、ジュネーブで記者会見を行ない「**チャイナ当局の感染防止対策は功を奏し、武漢市民は多大な貢献をした**」と称賛した。また「**国際社会はチャイナに感謝すべきだ**」と露骨に中国共産党に媚びてみせたのである。しかし武漢市での本当の悲劇が進行中のこの時に、「**感染防止対策が功を奏した**」などと言うのは、あまりに現実とかけ離れている。エイルワード氏は「**チャイナにおいて新型ウィルス感染はピークに達しており、感染者は急激に減少した**」と語った。

更に習近平のご機嫌を伺うように、次のようなことまで口にしたのである。

「私がもしこのウィルスに感染したら、チャイナで治療を受けたい。」

テドロス事務局長も酷いが、この上級顧問もあまりに利己的な嘘つきでしかない。更に 3月11日 になって WHO は、ようやく武漢ウィルスがパンデミックになったことを宣言した。実はこれもチャイナの情報操作とタイミングを合わせたの宣言だったのである。というのもその前日の3月10日、習近平は武漢を訪問し、「**事態は収束に向かっている**」と発言したのである。

そして WHO がパンデミック宣言をした3月11日には、湖北省は武漢市に向けて企業の操業再開見通しを 3月21日以降 とすると発表したのである。

習近平としては、ウィルス対策をあまりに厳密にやると経済が崩壊してしまうので、ある時点からは防疫活動の徹底よりも、経済活動の再開の方を重視するようになった。2月、習近平は中央政治局常務委員会で「**過度の防疫措置が経済に損失を与えている**」と語った。経済がストップしてしまえば、失業者が大量に発生し、中国共産党は最早、独裁的な統治を行えなくなる。

つまり中国共産党の支配体制が崩壊してしまう。それを防ぐ為には、死者が出続けても構わないから経済活動を再開させた方がよい、という判断を習近平は下したのである。3月6日から感染者数が突然、3桁台から2桁台に減少し始める。湖北省以外での感染者数はゼロになっている。そして3月10日に習近平が武漢を視察するのである。

3月11日には、湖北省の感染症対策本部が武漢市の企業に「早く操業を再開するように」通達を出した。習近平が経済を防疫より優先した政策をとっていることがよく分かる。勿論、発表される感染者や死者の数は全て嘘である。

そして3月10日を機に、中国共産党の焦点は防疫活動から政治的宣伝活動にその力点を移すのである。つまり経済活動を再開させ、感染症の蔓延防止は二の次になるのだ。3月11日のWHOパンデミック宣言の意味は何だろうか？

チャイナでは最早、武漢ウィルスは終息に向かっているが、世界ではそれが蔓延している。つまり「この感染症は世界の問題にはなったが、既にチャイナではこの問題は解決済である」そういった印象を与える為に、習近平が武漢を訪問した翌日にWHOはタイミングを見計らって、パンデミック宣言を出したのである。

それを裏付けるように3月13日、テドロス事務局長は武漢ウィルスの感染拡大について「今ではヨーロッパがその震源地である」と発言している。

つまりこれは最早、チャイナの問題ではなく、ヨーロッパの問題だというわけだ。この感染症の震源地がチャイナの武漢市であることは隠しようのない事実だが、その点すら隠蔽しようとしているのだ。

ちなみに、このウィルスの名前はあくまで武漢コロナウィルスないし武漢ウィルスと呼ぶべきであろう。この感染症をWHOは「COVID-19」と命名したが、こう名付けてしまうとこの病気がどこから発生したかという事実が全く忘れ去られてしまう。事実、中国共産党政権は、この病気の発生地がチャイナの武漢市ではなく、アメリカであるとかイタリアであるとかというデマを流し続けている。

「アメリカが武漢市に持ち込んだものである」という事実無根のデマさえ平気でチャイナ政府は流しているのだ。こういった誤魔化しを行なわせない為にも、このウィルスは正しく「**武漢コロナウィルス**」と呼ぶべきである。